

夫逝く

松林陽子

アルバイトに辞書の編纂せし夫は「舟を編む」の映画を観むと誘ひぬ
犬亡くし泣きある吾を大震災支援のコンサートに夫連れ行きぬ
センター試験恙なく済み久々にわれに本買ひて夫帰り来ぬ
文学を学ぶを義父は許さざりしを義母の支へにて今の夫あり
三年^{みとせ}ぶりに十日の休暇とれる夫とイギリス旅行申し込みたり
二回目のポリプ手術に夫に癌見^{もた}つかりたるを画像に示さる
癌と知らされ黙^{もた}せる夫と帰り来る見慣れし家路色を失ふ
予定時間過ぐるも終はらぬ夫の手術物音のたび立ち上がり見る
抗癌剤飲まぬ週の夫庭に出でてテラスの椅子を塗り替へくるる
この家に三年目の今日はからずも肝臓に癌の転移知らさる
大腸癌の術後肝転移は七パーセントと何故わが夫のそこに入るや
半年にて忌はしき癌は肝臓にリンパにさらに骨に転移す
殺処分されむ日の犬を貰ひ受け癌病む夫を今笑顔にす
手のしびれ夫のはめ得ざるシャツのボタン子らにせしごと今わがとめる

新しき抗癌剤になりて三日豊かなる髪抜け始めたり
屈まれば骨への転移に胸の痛む夫に靴下朝々はかす
寒々と生駒嶺^ねに月残る朝入試業務に夫は出で行く
癌の数値正常になり気分良きか最終講義の準備始める
任期最後の入学式に読む祝辞時かけ書きしを流感にて行けず
熱高く腰痛む夫わが車に辛うじて乗り大学へ向かふ
テキパキと決済をなし指示をだす職場の夫を初めて見たり
わが顔をベッドより見つめる夫に気づき笑みを返しぬ逝く三日前
わが問へば語りくれしか言ひ残す言葉なく夫は逝きてしまひぬ
四十七年われを呼びたる愛称を三度^{みたび}叫びて意識不明に
意識なき夫の手さすり頬なでて礼言ふわが声耳に届きしか
苦しみの後意識不明になりし夫逝きて穏しき面になりたり
逝きし夫と共に帰りゆく車窓より生駒^{いこ}山の山桜白々と見ゆ
在りし日の夫も見^み放^さけむ神戸の海お別れの会の今日もきらめく
甲南の三つの丘になぞらへし夫の祭壇白き花の丘
一日会へねば辛かりし若き日のありき夫逝き今は永遠^とに会へざる